

Japanese Working Class Artist ~ RYO KANZYU



短い物語P&D

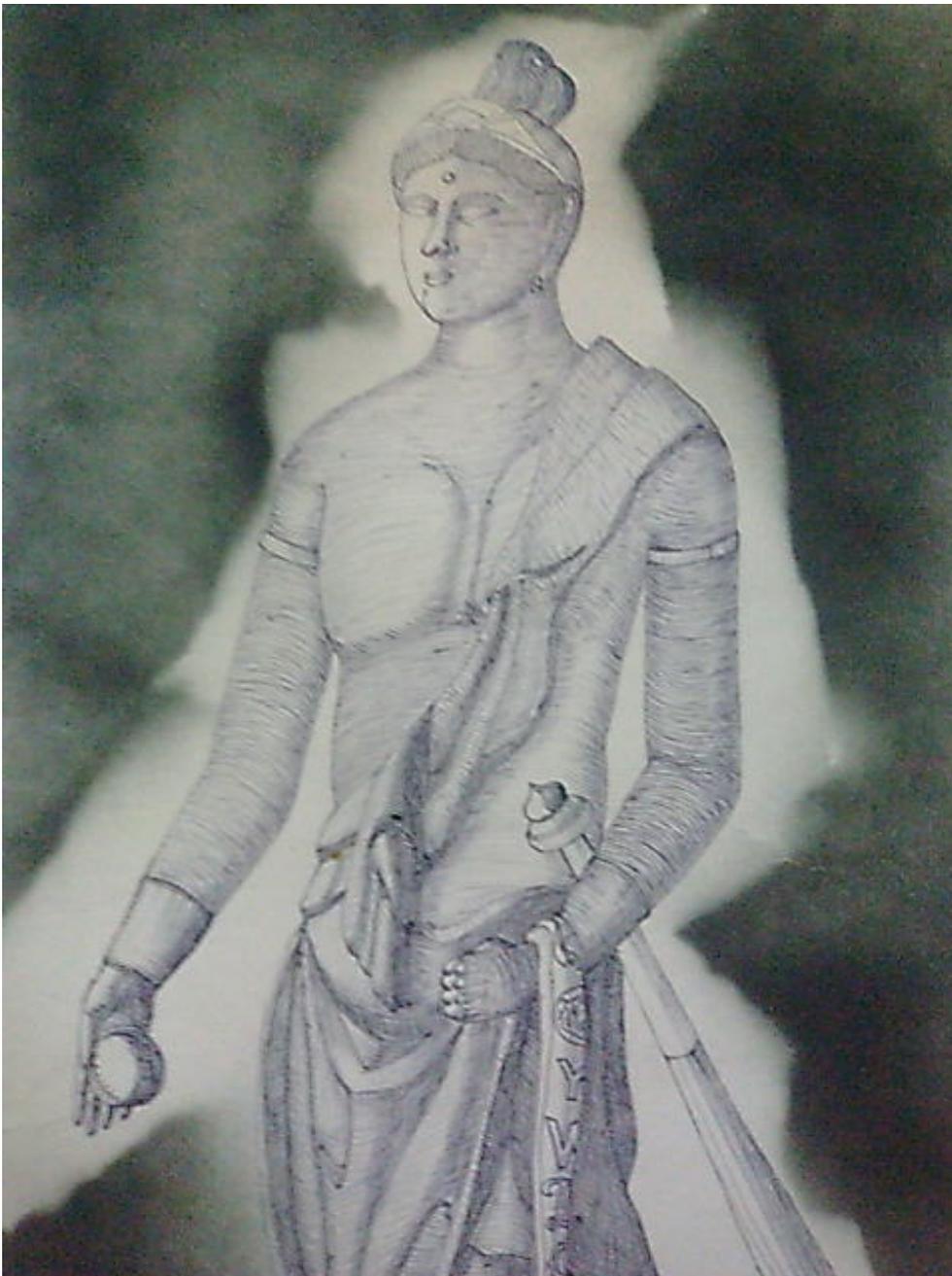
# 50世紀



ORIGINAL  
SINGLE

ある日、僕は境界線を越えた。  
初めて向こう側に両足で立った時、罪悪感はまるで無かった。  
フェンスの隙間から片手や片足を出して喜んでいたのはもう昔のこと。  
普通と言うか、平均的な子供だった僕だが、ついに罪を犯した。  
好きなことをして収入を得たいという夢が、脱皮して異形のものとなった。  
法律を自分には見えないように足もとに埋め、印は付けなかった。  
僕はためらうこと無く、情報の少ない領域に侵入した。

禁じられた世界に忍び込み、僕はたったひとり興奮していた。  
緊張もしていたが、ダメージコントロールは考えていない。  
隠した餌を掘り出すように、僕は夢中になっていた。  
欲望に押し切られてスタートしたこの盗掘は、やがて成果を見せる。  
廃墟のような現場から発見されたのは、見たことも無い造形物だった。  
高さ30cmほどの生物のような姿。  
おそらく錆びにくいであろう合金製の物体。  
どの国の博物館にも展示されていないし、似たような物を目にした記憶もなかった。



これこそ文献を揺るがす発掘になる。

この遺跡は大当たりだ。

更に興奮した僕は、思わず立ち上がった。

その時、貧血気味せいか、立ちくらみでよろけた。

僕はふらっと後ろへ崩れ、しりもちをつくような感じに仰向けに転がった。

たいした衝撃がなかったせいか、背中が何かを感知したことが直ぐに分かった。

下に固い物体がある。

僕は寝返りを打つように地面の方を向いた。

上半身だけ起こし、右脇の下辺りの土をはらい除けた。

そこには金属製のケースがあった。

その中身は、片面が虹色に輝く円盤だった。

厚さ1mm、直径が10cmくらい。

数世紀前に使われなくなった光ディスクの一種だ。

百枚近く入っている。

何らかの映像が記憶されているはずだ。

幸いなことに、ほとんどが劣化を免れていた。

僕は適当に一枚取り出し、持って来た携帯端末にセットした。

そして僕は知ることになる。

失われたとされていた21世紀の情報が僕に流れ込んで来る。

テクノロジーの突出が招いた環境破壊の始まり。

中身の無い繁栄とその終焉。

その後の生き辛い社会。

そんな時代の、人間の営みと姿。

僕が発見した物体は、かつての人類の姿だった。



再生が終わり、黒いディスプレイに自分が映った。

そこには、間違いなく今を生きる人類がいた。 ～終わり

## 作品データ

---

### 【作話】

■タイトル(Title) : 短い物語P&D 『50世紀』

■作家名(Artist) : 環樹涼(RYO KANZYU)

■制作年 : 2009

~~~~~

### 【画】

■タイトル(Title) : 『50世紀～SCENE1』 『50世紀～SCENE2』

■作家名(Artist) : 環樹涼(RYO KANZYU)

■制作年 : 2009

■画材 : ボールペン、鉛筆、画用紙、スプレー

■作品サイズ : B5サイズ相当の画用紙を使用。縦19cm×横14cmの枠内に描画。

■販売価格 : 10,000円 (税込)

※『短い物語P&D』を表す絵画は、主にリアル展示による公開です。